



特定非営利活動法人

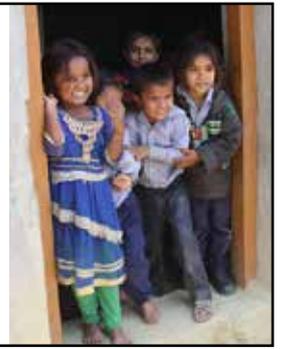


<http://nepal-mika.jp>

平成 30 年 春号 NO.60

ネパール・ミカの会

平成 30 年 4 月 25 日発行 194-0035 東京都町田市忠生 2-5-36 tel042-791-0602



「つながり、つながる、つながろう」

NPO 法人ネパール・ミカの会 理事長 齋藤 謹也

つい 20～30 年前、教育の核心テーマは、「学級崩壊」でした。机の上を授業中に歩き回る子ども達。クラスが崩れている様子や自信を失っている教師陣。校内での暴力、いじめ、不登校などが広がり、ゆとり教育が叫ばれていました。その対処としてのゆとり授業もなかなか落ち着かない中でもう一方で、ゆとりの時間も大切だが、日本の子ども達の学力が落ちてきていると言う声もあがり、「確かな学力」「基礎基本」も大切な指導として教育要綱も改訂された頃にネパール・ミカの会が始まりました。

たまたま寄った雨漏りの校舎。その雨漏りを避けながら授業を真剣な瞳で受けている子ども達。「あれも学校ですよ」と言われて立ち寄った、ルンビニ聖地公園手前から始まったルンビニ支援の輪を思い出しながら、今春の第 20 次教育支援の旅。新川先生のマルチメディア教室新築工事着工を目の当たりにし、感慨深い旅でありました。

本年 2 月、70 代に入って 2 年目を迎え、何とか第 20 次と言う節目の旅に参加したいと言う思いでした。参加の会員には大変にご心配をおかけしました。気の強さだけではうまく事が運ばず、体力の無さをより痛感した旅でした。特に直前の今村顧問、大谷監事の逝去や入院などにショックを受けて、忘れがたい春となつての旅。辛いですね。ありがとうございました。

今年の旅は、私自身の体調不良の為、ご迷惑をおかけし、帰国してから初めて花粉症となつて、いよいよ真剣に今後の方向を、私も含めて考えなければと思います。

高齢化に直面してみると、築田寺の御詠歌の

朝日さす築田も寺の 観世音
水に月影 映る近いは

の歌を急に思い出しましたが、周囲が枯れ野になつても、遠山の朝日が当たる明日を信じて、さらにできることをしっかりやってみたく思います。「ささやかに心を込めて」を言いつづけた 20 年。積み重ねて過ぎてみれば、大きなかたまりとなりました。どうバトンに次代に渡していくかを常に考えながら、チャンスを掴んで行きたいものです。希望を失わずに。

旅に感想といつても数十回目となると、特にありませんが、「よく続いてきたなあ」に尽きると思います。時にヒマラヤの勇姿や仏跡への思いがよぎることが多くなりました。また参加会員のガンバリに改めて驚きと敬意を感じます。よく連れてきてくれて、ありがたく思いますね。今年は二度目の雪山童子の遺跡を訪ねることが出来ました。

「当たり前」と思っていたことが、ことさら、すごい事と思う旅。ネパール行きでした。

「変化しているニーズ」

西澤 忠

永年の懸案であった新川基金は、新川 MMR (Multi Media Room) としてマズワニ高校に建築が始まっていました。旧校舎を解体するときに壁中に毒蛇が潜んでいたなどの理由により、進捗が遅れが出ているとの連絡は受けていました。現地を訪問して自分の目で見ると基礎工事が終わり、耐震構造を高めるため柱を増強して屋根を載せるとのこと。完成は今年夏頃になりそうですが、わくわくしながら完成を待っています。

ルンビニ地区もバイラワ国際空港建設に伴って、道路が整備されつつありホテルも増えています。また昨年訪問した時は通称町田街道を歩いている人を多く見かけましたが、今回歩いている人よりもバイク・車・自転車を多く見かけました。

教育関係では昨年より新教育制度が導入され、各学校共この制度に従った Basic School のインフラ整備などは進んでいるように思いました。しかし 4 年間の高校教育に対応する教育内容、教師、専門課程などの整備は一部の学校は整っていますが、多くの学校はこれからです。

私たちの活動もこのニーズに応えていかなければならないと思います。一方全体の児童・生徒数は減少傾向が見られます(別報告書参照)。ODA などによる校舎建築も行われていて、学校の教室数は充足しているように思われます。一部ですが部屋を物置として使っているところもありました。入事前の幼児が訪問校で 1 校あたり 25～50 名います。この幼児たちは 1 年生と同居している学校がほとんどです。このための環境整備にも重点活動の必要性を感じました。

更にミカの会が建てた学校も逐次補修や改修が必要となります。これらの改修を計画的に進めて、子供たちが安心して勉強できる環境を維持しなければなりません。

次にタンセン地区ですが、今回お互いに顔を合わせた交流に力点をおいた活動をしました。これで良かったのではないのでしょうか。3 校訪問しましたが、1～2 校程度にして子供たちとの交流にもっと時間をかけたいなあと思いました。タンセン地区はルンビニ地区がこれから取り組まなければならない幼児教育及び専門課程、ネットワークを活用した学習環境が進んでいる地域であり参考になります。

ともこ学校ですが、なんとなく癒されるのどかな環境にあり村をあげての学校ようです。素朴な子供たちの学習環境向上の手助けを続けたい気はします。しかし時間・費用面など交通手段を解決していかないと、今後の活動に支障があるように思います。

最後にいつもの事ながら、お世話になったラマ理事にお礼を言います。また今回悪路のなか、ともこ学校に同行していただいた、マハルジャン ゴビンダ氏及び大地震のときの支援活動を含めて 5 回も現地を訪問された マハルジャン ラビ氏に感謝の意を表します。

ネパールは三度目の旅である。チャンディカ小学校の校舎が老朽化し、学校を建て直そうと、先生方が奔走したそうだ。しかし、どうにもならないので、在日ネパール大使宛てに、陳情したところ、大使から、齋藤理事長を通して、植草に白羽の矢を当てて頂いた。丁度、智子の葬儀に頂いたお金が手元にあり、神様が「それに当てなさい」と言われたかのようにであった。

そして2010年の開校式に招待され、ネパールに飛んだ。「ともこ学校」と名付けて頂いた。しかし大地震で校舎が倒壊した為に、鉄筋コンクリートで再建築し、2017年4月に開校式の為に再度ネパールに飛んだ。学校が出来、子供達が少しずつ帰って来ている事を伺い嬉しく思った。その際、2018年の支援までに、子供達へジャージをプレゼントする事を約束した。お揃いのジャージなら、格好良く、制服代わりに着られる。

名前ばかりの理事ではいけない、少しでもお役に立ちたいという思いで、今回のミカの会の支援の旅に加わった。ミカの会の会員は、仲が良いので私も仲良くなりたかった。

ともこ学校しか知らなかった私は、ルンビニ、マズワニ、マヤデビー、サラソティなど、20年に渡る学校建築や教材提供、修繕など手掛けて来たミカの会の支援を見て、人との繋がり、こつこつゆっくり、そして自分達も楽しむ支援だからこそ、長く継続出来るのだと実感した。現地でのラマさんの活躍や地元の方々の協力、在日ネパールの方々との交流が大切な要素で、良い支援に繋がるのだと感じた。

ミカの会は何校も学校を建築していた。それが発端となって、他の国や団体が支援して学校が出来ていた。しかし、トタン屋根で夏は多分熱い、雨が降れば音がうるさい、と思われる屋根であった。良い点もあり、一概には言えないが、本当の支援とは？寄り添う支援とは？と考えさせられた。また支援の難しさも感じた。教材を活用しているパドマ・カニヤ女子校は、生き生き勉強していて、目標を持っている生徒が多かったが、悲しくも、図書が積んであるだけで、活用されていない所もあった。今後の課題である。

山の上にあるともこ学校までの車の移動は凄かった。道が凸凹で天井に頭がぶつかり、身体が前後左右に揺れ、それが6時間強続いた。皆笑って凌いだが、タフで凄い方々だ。ガードレールなるものは無く、崖っぷちを上って行く。現地の運転手の腕はピカイチだ。車の上に積んでいた荷物は段ボールが破れ、本が落ち、拾いつつ進み、ゴビンダさんとお兄さんが縄を括り直してくれた。天空の学校は素晴らしかった。ミカの会の図書室も綺麗に図書が並んでいた。皆ジャージを着ていて、誇らしげだった。

サッカーボール等遊具やノートを喜んでくれた。私達の車での移動は大変だったが、ここで暮らす人達は、生きるのがもっと大変だ。日本では、生活は簡単になった。ボタンを押せば料理が出来る。洗濯もしてくれる。でも生きる喜びが失せているのは何故だろうか。「世界で一番美しい村」が教えてくれる。

日本人が失くしてしまったものが、ネパールにはある。支援する事で反って、日本が支援される、そんな相互支援になる事を願う。



ネパール教育支援の旅に参加させて頂きありがとうございました。以前から、ネパールの事を家内から聞いて自分なりに想像していましたが実際に見て体感すると、聞いていた以上の事が多くカルチャーショックの連続でした。

一番に感じたのは、町の中の汚さです、2015年の大地震の復興の真っ最中と言う事を除いても、そこら中、工事だらけ、埃だらけ。ルンビニでは空港近くの道路が国際線化の為に大工事していましたがあちこち一斉に舗装を剥がしている為埃だらけ、土が露出したまま工事していない区間が沢山ありました。日本では考えられないような工事のやり方です、もう少し細分化して計画的に工事が出来ないのでしょうか？首都カトマンズにおいても然りです、宿泊したホテル近くの繁華街の道路で一部排水が悪いのか水がたまりドブのような臭いがしていました、たぶん長期間生活排水が溜まった状態だと思います。雨季になるとどうなるのでしょうか？想像しただけで恐ろしいです。ネパールの下水道設備は2010年から5年計画でカトマンズ地域を全域整備すると言われていましたが本当に終わったのでしょうか？

3月4日に加藤誠一さんとガイドのモティさんの案内でカトマンズ市内を見学する機会があり、その途中途中で見かけたマンホールは下水道の蓋より「ネパールテレコム」の地下通信設備の蓋の方が目に付きました。

生活の充実より近代化を優先した国の政策なんですかね？以前より電力事情はずっと良くなっているようですが、生活に密接な上下水道の改善はまだまだのようです。ネパールはよく日本と比較すると、戦後すぐの日本の生活環境と言われますが日本は戦後20年で飛躍的復興と進歩を上げ現在の繁栄があります、本当に日本に生まれ幸せだったと感じます。

ネパールは1990年の民主化から早30年ですが未だ未だ発展途上です。国家予算の1/3を他の国の支援に頼っていると言われていたネパールですが、同じ貧困国でも宗教の違いから戦争までする国と違ってとても良い国だと思います。

早く世界一美しい国になって欲しいと思います。

周りにはヒマラヤ山脈など綺麗な山々に囲まれた綺麗な風景が広がっているのですから環境は整っていると思います。

ネパールの汚さを感じたのは埃だけでは有りません、道路に捨てられたゴミの山訪問したルンビニの学校の周りにも沢山のゴミが捨てられていました、多分先生達にも綺麗にするという意識すら無いのでしょうか？

ネパールでは他人が捨てたゴミは一切関知しないと聞いたことがあります

日本だったら、もし家の前にゴミが捨てられた場合、不意でも掃除しますよね。ネパールではそれが出来て無いのですね、だったら「捨てるなよ！」と思います

ミカの会で今まで支援してきた建物やコンピュータ、本なども乱雑に扱われ決して大切に扱われているとは思えませんでした。

子供達は皆とても素直で全ての事を吸収出来る様な澄んだ目をしていました。その子供達を育てる先生達や大人が今の状態では決して良くないと思います。先生達教育者への教育支援が必要では無いかと強く感じました。

その点、タンセンの学校は聞いていた通りで素晴らしかったです。先生達の教育に対する意識も高く素晴らしかったです。

町の雰囲気や人々も活気に満ちているように見えました。ネパール全体がタンセンの人達の様な考えになれば、もっともっと良い国になると感じました。

「ルンビニにて」

加藤 雅子

2月28日、ルンビニ公園にある大きな菩提樹の下に立っていた。その時私は、2012年の第15次教育支援の旅で執り行われた東日本大震災慰霊法要を思い出していた。ルンビニ公園内にある各国寺院の僧侶達と近郊の小中高の生徒、児童700名あまりが参列した。菩提樹の周りを取り囲むように座り、多くの人で埋め尽くされた。各国の僧侶の読経の中、震災で亡くなられた方のご冥福を祈った。こんなに多くの人達が遠い日本の震災を心配して祈ってくれていることに、感激したことを思い出した。

そして今回は、同じ木の下で、2月に亡くなられた今村前副理事長の法要を行った。飾られた写真の笑顔の今村さんを見て、本当に亡くなってしまったのかと、新ためて悲しみがこみ上げてきた。いつも、例会などでは楽しい話をして場を和ませたり、バザーの時は、後ろから私達を優しく見守ってくれていた。本当にありがとうございました。ミカの会の活動を、これからも空から見て下さい。

ルンビニでは、三泊した。丸々二日間学校訪問に使えたが、相変わらず砂ぼこりとガタガタ道でスムーズに前に進めず、移動に時間がかかった。全部で9ヶ所を訪ねることができたが、時間に余裕を持っての交流は出来なかった。シリ・マズワニ校に建設中の新川マルチメディアルームは基礎工事が終わり、順調に進んでいる様子を見る事が出来た。

今回、ルンビニ各学校を見て感じた事は、校舎建設の支援は、今のところは足りているなどということ。埃だらけの教室や、物置状態になっている教室を目にしたからだ。せっかく建てたのに上手く使われていない様子だった。これからは、建物の修復や制服・備品・図書などの支援と、先生達の研修会など出来ないのだろうか。

最後に昨年11月に会員となった、ネパール人のアチャリヤ・ディペスさんを通して知ったバイラワ近郊にある、金子みすゞ学校を訪問して来た。ここは、群馬県出身の写真家、オギノ芳信さんが中心となって募金を募り1995年「日本ネパール友好協会」が建てた学校だ。教室の入り口のプレートには、金子みすゞの「みんなをすきに」の詩が、日本語とネパール語で書かれていた。現地女性の先生が「オギノさんはお元気ですか」と聞いてこれら「ご高齢の奥様の介護とご自身も高齢ということで、ネパールには来ることが出来ないようだ」と西澤さんがお話した。オギノさんを心配している様子が伺えた。

さて、今回の支援旅は私の主人も初参加した。日頃からミカの会の活動を理解してくればバザーの荷物運びなど手伝ってくれている。私は以前から、ネパールを自分の目で見てもらいたいと思っていた。そして、今回それが実現し、私はとても感謝している。最後に、一緒に旅行した会員の皆様、主人を心良く迎えてくださり、有難うございました。

「ネパール教育支援旅行に参加して」

中野 千恵子

今年の旅行の最終は三班に別れての行動でした。一つの班は朝、6時50分発のともこ学校行。もう、一つは観光組、カトマンズの世界遺産見学です。そして、私達の四人の巡礼グループは8時30分発でナムボッタに出かけました。カトマンズから東に30キロ、ドウリケルの東南の丘陵地域の山腹にたたずむ仏塔時代のネパール仏教の第一級の寺院です。マハサッタ王子が自らの身をトラの親子に与えたと言う話で有名な捨身供養の仏教寺です。

天気が良いとエベレスト迄見えると言われているので楽しみです。カトマンズ国際空港を見ながら、また、バクタブルの側を走りながら進んでいきます。やがて道はデコボコ道になり前の椅子に捕まっていないと大変です。細い道を進んで行きます。何年か後には舗装されるでしょう。

やっと、終点。美味しいミルクティも頂きました。そばの寺院に参拝してから、階段をビスタリー、ビスタリーと登っていきます。一時間ほどして頂上に着き、右の方の階段をまた登ります。そこには素朴なたくさんのストーパが並んでいます。トラの絵がある側で大勢の中国人らしい方々がお祈りをしています。一日中、お祈りをしているようです。灯明をして、階段を降り、もう一つの頂上に行きました。そこからの景色は360度ぐると見えます。

天気が澄んでいればここから、ヒマラヤの山々が見えるのでしょうか。残念。山の下には寺院の学校が建っています。立派な学校です。

下の駐車場までゆっくりと降りてティータイムです。綺麗な食堂で、お菓子や文具等も売っているようです。僧の子供達も数人でお金を握りしめて買い物をしていました。12時も過ぎているのでお腹も空いてきました。車に乗り、食事が出来る所まで、又、ガタガタ道を走ります。やがて、綺麗なホテルに到着。その庭でヒマラヤが見えそうな所でサンドイッチを頂きます。あまりに量が多いので全部は食べれませんでした。

ゆっくりと食事をとり、今度はバクタブル見学。そこで、カトマンズ見学の人たちと遭遇しました。又、別れてから小さなお店でヨーグルトを初めて食べました。バクタブルでは有名だそうです。とても美味しかったです。そこから、カトマンズに戻り、カトマンズ見学の人たちと夕飯を日本食堂の桃太郎で食べて一日を終わりました。それぞれの班の方々もきっと疲れたことでしょう。

これまで、元気で旅が出来たことに感謝しました。

新川 MMR(Multi Media Room) の建設が始まりました。支援の旅訪問時は基礎工事がほぼ完了し、4月末現在では屋根まで工事が完了しました。間もなく完成の予定ですが、什器やパソコン、ネットワークの設置などまだまだ整えていかななくてはなりません。

1日も早く開校され、マズワニの子供達とネットワークで繋がる日を楽しみにしています。



新築中の新川MMR 支援の旅訪問時は基礎工事・現在は屋根まで工事が進みました。



ネパールでのルンビニ タンセン・カトマンドウ・ともこ学校の訪問記録です。Nepal 2018.02.27 ~ 03.05





植草会員の寄付で作られた校舎「ともこ学校」が3年前の大地震で崩壊、改めての校舎建設となりました。ミカの会は地震の募金の中から屋上の図書室建設を支援いたしました。図書とスポーツ用品そして植草会員からジャージが送られました。アクセスが悪い為に苦労が多いのですが会員4名が支援品を届けてくれました。

「第20次ネパール教育支援の旅」

松浦 陽子

今年の支援の旅はシンガポール経由だった。シンガポールのチャンギ空港は今、世界一といわれる程広く立派で、第4ターミナルまであるのだそう。寒い日本とは反対で真夏の暑さで、夏服に着替えて市内観光をした。かの有名なマライオンやあの屋上にプールがあるホテルのマリーナベイサンズなど主な観光名所を短時間で廻った。いつか機会があったら沢山ある島々をゆっくりめぐってみたいものだ。

翌2/27(火)は移動日でシンガポールから5時間かかってカトマンズへ飛び、国内線に乗り換えてバイラフへ。そして夕方、ようやくルンビニ・カサイホテルに到着。一日がかりだった。

乗り継ぎが多くしかもルンビニに入ってから、3~4年後にバイラフに出来る大きな空港工事の為にトラックが頻りに通るので、一般車はスムーズに走れず、おまけに道路工事も多く、移動の車の揺れが激しいので、疲労感が倍に感じられた。

そんな中、3泊出来るカサイホテルは、本当にこの旅のオアシスの様に思えてほっとする。ここルンビニはお釈迦様の生誕地。翌朝、ラマさんと参加者全員でルンビニ公園「マヤ聖堂」に立ち寄り、去る2/19日に亡くなった今村氏の慰霊を行った。過去20年、この教育支援の旅にほとんど毎年の様に参加していた人だったので、とても残念で寂しく切ない。

帰りがけに公園内でシリ・マズワニ校出身の男子が、菩提樹の実のお数珠を売っていたので、理事長始め3~4人で買ってあげた。一本おまけしてくれた。この地域を20年間訪問しつづけ、ささやかながら支援活動をして来た中で、こんな風に支援校の生徒が成長し、社会の一員として働いている姿を見るのはとても頼もしくもあり、嬉しい事だ。

この日から、今年もルンビニ地区の支援校を8校まわり、持参したテニスボールや鉛筆、布袋などを配り、他にみずず学校や寺子屋なども訪問したが「水かけ祭り」と重なり、お休みの学校が多く、一部の生徒達にしか会えなくて残念だった。

そんな中でもシリ・マズワニ校の敷地内に建設中の、新川マルチメディア教室の基礎がほぼ完成し、もうすぐ屋根も出来ると聞いて一安心。シリ・マズワニ小学校の修理も順調に進みつつあるとのこと。ラマさんの日頃の努力と苦労に感謝しかない。

そして今年訪問した中で、私が一番記憶に焼き付いた学校は一名「ともこ学校」で、正式名称はバルワ村「チャンディカ小中校」だった。

旅の後半で大分疲れが出る中、割合元気な人だけ4人、案内してくれるゴビンダさん兄弟を含む6人でこの凄い辺境の山の上にある「ともこ学校」へとインド製の四駆で向かった。

カトマンズを出ていくらも走らないのに、最初の難所に遭遇して1時間位待たされてしまった。何と道路を今のいま、ブルトラーザで作ってるのではないかと！あまりのことに皆で茫然。「もしかしたら目的地に到達できないのでは？」と不安になったが、何とか無事に通行できる様になり、先へと進んで行った。それにしては行く道々の険しさと云ったら、パリダカのラリー並みで、四駆は四六時中揺れっぱなしで、良く皆、吐かないで持ったものだと感心した位だった。

6時間かかって13時15分ようやく「ともこ学校」到着。来る途中で揺れの激しさから、2度も車から落ちた支援の図書やジュースやスポーツ用品等を、歓迎式典を開いて待っていてくれた生徒達に皆で代わるがわる渡した。西澤理事とこの学校を建ててくれた植草会員が挨拶をした。生徒達の嬉しそうなお顔を見ると「険しい道のりをはるばるやって来た甲斐があった」と報われる思いがした。山の上であり、絶景とも言える場所にある学校だが、如何せん、アクセスが大変で度々訪問するのは難しいと思われる。

何とかネパール政府が道路などのインフラの整備を急いで欲しいと切に思ったことだった。

「第20次教育支援の旅」

吉田 久子

ネパール教育支援の旅に参加出来た事は本当に嬉しかったです。

シンガポールでは マライオンや植物園、リバーボートツアー等市内観光の後、レーザー光線を使ってのイルミネーションを暫し堪能しました。ネパールへの移動中の飛行機から真っ白いヒマラヤ山脈が見えた時は「またネパールに来たんだ」と感動しました。すごい人と車の洪水、すぐに国内線に乗り換えルンビニへと向かいました。

ルンビニ聖地公園の菩提樹の下、齋藤理事長の読経により、今村氏の供養が営まれ、心から冥福をお祈りいたしました。学校訪問では「手から手へ」子ども達の澄んだ美しい瞳に出会い心が洗われるようでした。やっぱり直接手渡すことの大切さを感じました。カサイホテルに3連泊できた事は、心身ともに疲れを忘れ、快適に過ごすことが出来ました。

タンセンへは悪路の為、結構揺れながら到着しました。夜には大勢の先生方と懇親会を実施することが出来、お互いの信頼感を確認することが出来たと思います。はるかに山脈を望む丘で中野さんと太極拳をしました。良い記念となりました。

カトマンズでは3班に分かれての行動でした。私たちは齋藤理事長、ラマさんと由緒あるお寺に登ることが出来ました。日本人の参拝客は少ないとの事。長い階段を休みながらゆっくり登りました。世界遺産巡りの中で、素焼きの器に入った名物のヨーグルトを美味しくいただきました。器は捨てるとの事、記念に持ち帰りました。

パドマ・カニヤ女子校訪問では、建設中の寄宿舎を見せて頂き、図書とボールをプレゼントしました。日本語の上手な子がいてびっくりしました。

早朝のロープウェイ山頂で仰いだ真っ青な空は、私の心にもいつまでも残っています。下界のあの埃とは、全く対照的でした。一日も早く道路の整備がされますことを念じつつネパールを後にしました。同行の皆様、大変お世話になりました。



「ネパール教育支援の旅・雑感」

和田 泰子

今、ネパールは高度成長期の日本のように、いたる所で道路工事が行われ、建設ラッシュを迎えているように見えます。

どこを走ってもデコボコ道にもうもうの埃。まあこの20年余り幹線道路の埃も変わりなくすごいものなので、昨今の工事のせいばかりとは言えませんが。この埃と対照的に、帰国する日に立ち寄ったカトマンズ郊外のチャンドラギリヒルズのケーブルカーは、こんなに立派な建造物がネパールにも出来た！とびっくりしましたが、カトマンズの大気汚染を見下ろすここは空気までも澄んでいます。

ここで素晴らしい景色と団欒を楽しむ人々、それはそれでネパールの発展していく姿として喜ぶべきことかもしれませんが、旧王宮周辺の道端で具合の悪そうな幼児を膝に抱え小銭を求める母親の姿、また先のない片腕を差し出し恵みを求める男の子の姿が目につき刺ささり複雑な心境になります。政情が安定してきたようなので、市井の人々や子どもたちの生活が、少しでも良くなっていくことを心から願います。

教育支援の旅で、今年もルンビニ・タンセン・カトマンズ郊外と沢山の学校を訪ねました。ルンビニに増築した何校もの校舎のひび割れを見ると、20年以上にもわたるミカの会の活動の長さをつくづく実感すると共に、これらの校舎を責任をもって修繕していく事がこれからの課題であると、また現地の新たな要望にどこまで対応していけるかを、皆で知恵を出し合って考えなければと思ったことでした。

支援を始めた頃は小学校までだった学校が、ミカの会による校舎の増設により今はほとんど中学・高校までに発展し、また世界各国の援助と国の方針でトタン屋根の教室があちこちに増設されていて、現地が望む要望はコンピューター設備やその関連の図書等に変わってきています。

タンセンでは専門的な幼児教育を始めた学校もありますが、ルンビニの学校では一年生になる前の3、4歳の子どもたちが通っているプレイグループというクラスがあり、使っていない汚れた教室や物置になっている教室を活用すれば、もっとしっかりした幼児教育も可能かと思われました。

今回の旅で、初めての試みで帰国前日の一日だけ3つのグループに分かれて行動しました。私は植草さんの支援で完成したともこ学校（先の地震で倒壊し、再建され2階にミカの会支援の図書室完成）を訪ねるグループを希望し、ゴビンダさん、ラビさんが同行してくれました。ジープで往復11時間余かかった山道で、ザルの中で上下左右に揺すぶられる豆のようにボコンボンと飛び跳ねながらやっと到着したともこ学校は、段々畑を見下ろす清々しい山の上であり、光子さんが贈呈したジャージのセットを身に着けた子どもたちは、元気いっぱいキラキラ輝いていました。

ミカの会の図書室も立派で整理整頓がいき届いていました。辛い道のりでしたが、心に残る一日になりました。

私たちが支援の旅から帰国した後、ラマさんは再びルンビニに取って返し、この原稿を書いている3月下旬には、新川MMR建設もマズワニ校の修理も終了間近、サラソティ小には沢山の方々の気持ちが込められた机・椅子が整いました。ラマさんの時間と体力を駆使しての尽力には感謝もしきれません。

最期になりますが、長い間ミカの会の中心になって活動されていた今村旭さんのルンビニでの法要で、暖かな風が優しく頬にあたる中、齋藤理事長の読経の声を聴きながら今村さんと一緒に旅の場面が次から次へと浮かんで消えました。

どの今村さんもニコニコとほほ笑んでいました。時々会報に懐かしい方々の支援の旅でのエピソードを書かれていて、今度はトキ（私の母）さんのことも書いてあげるからね、と言っていたことは叶いませんでした。

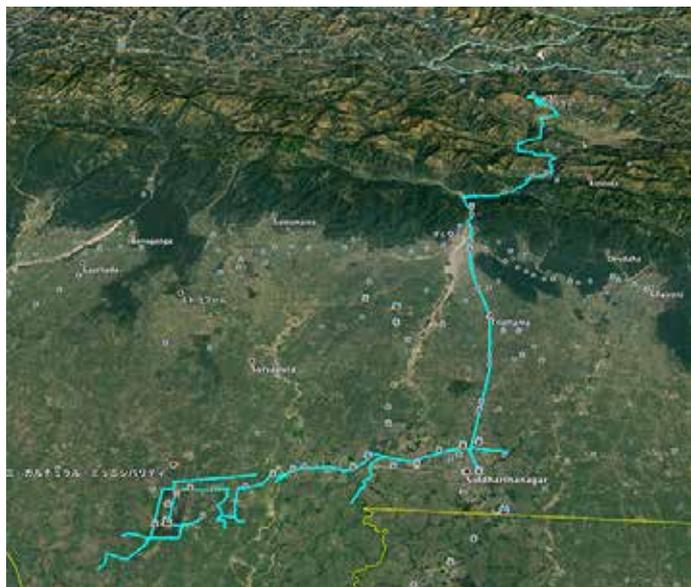
心から感謝するとともに、ご冥福をお祈りいたします。

「ちょっと心配・支援の旅」

加藤 誠一

第20次の支援の旅が無事に終わってホッとしています。最近の旅では体調不良になることが多くて気になっていました。今回も旅の後半、帰国後に何人かが具合悪かったと聞きました。考えられる事は？疲労からくる胃腸の変調。その原因は経由したシンガポールでの睡眠不足。各地の温度差。交通手段とくにマイクロバスでの移動。ラマさんの配慮でマイクロバスもカトマンズからわざわざ回送して来た日本製のエアコン付きバス。そして宿泊もルンビニはバスタブ付きのカサイホテル。思いつく限り改善するところは見当たりません。

タンセン往復の山道も以前よりだいぶ改善されていました。ともこ学校往復の過酷な移動を除けば行程的にはことさら厳しい事は無いと思います。年齢的な事と片付けていいものか？次回支援の旅に向けて考えなくてはならないと思います。



上の写真がバイラワ・ルンビニ・タンセンの移動経路です。訪問先の子供たちと交流する時間が欲しい。先生方とも話したい。折角なので観光もしたい。会員の皆さんの気持ちもそれぞれかと思えます。

今回、3グループに別れて行動しましたが、希望によりきめ細かに予定を作ることも必要かもしれません。費用もかかる旅なのでそれぞれが満足できる旅を企画しましょう。

「ネパール教育支援の旅」

齋藤 美江子

二十年振りに訪なふネパールの
発展途上の力を見たり

貧しき国ネパールに生命（いのち）を育みて

眸澄みたる子らの愛（かな）しさ

菩提樹を遙か仰ぎて遠き世の

釈迦を偲びぬ聖地に來たり

ルンビニの菩提樹の下 身罷りし

友を弔ふ読経の清し

深き眸（め）を光らせ吾を見つめぬ

ネパールの子らの直（すぐ）なる心

思ひきり笑顔向けばナマステと

小さき手合はせほほ笑む幼（おさな）

鉛筆一本配れば子らは嬉し気に

顔見合はせてしつかりと持つ

黒く細き素足で土を草を踏む

はつ夏の子らの影二つ三つ

うらかな自然の中に放たれて

この貧しさを子らは知らざり

ルンビニの犬、山羊、鳩らみな瘦せて

餌を啄む午後の一ととき

色とりどりの衣裳を纏ひ野を歩む

ルンビニの女の美しき哉

カトマンズの世界遺産バクタプル

寺、塔、家屋、直（ひた）に見つむる

暫く振りのネパール、大変なつかしく、ルンビニ、タンセン
カトマンズと多くの学校をまわり子どもたちと会うことが出来
楽しい旅でした。同行の皆様感謝しております。

平成 29 年度校舎修復募金の報告と御礼

老朽化してきた校舎の修復の為に特別募金をお願いしてまいりました。新校舎の建設には相当の金額が必要となりますので、危険のない範囲で再使用できる校舎は修復を進めてまいります。今回の募金額は 500,546 円でシリ・マズワニ小学校を修復いたしました。これからも校舎修復を継続して行く予定なので、再度皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



シリ・マズワニ小学校修復前と修復後



「世界で一番美しい村」

ネパール教育支援・チャリティー上映会開催。
平成 30 年 1 月 25 日（木）午後 13：30 ～
上映後、町田市在住の石川監督のお話を頂きました。
チケットは完売。当日の来場者は約 160 名でした。





2017.11.03 文化の日。

好天に恵まれ第20回国際ボランティア祭「夢広場」が開催されました。スリランカ大使の訪問を受け、参加者は日頃の練習の成果や、活動の成果を発表しました。我がミカの会はネパール民芸品の販売。楽しい1日を過ごすことができました。

第20回を迎えた国際ボランティア祭「夢広場」は20年前ミカの会が中心になって開催されたイベントで今は無い東急前の噴水広場でかなり大きな規模で行われていました。その後、国際交流センターの国際協力部会が中心となり、予算の制約、会場などの問題から様々な工夫が行われ、現在に至っております。当ミカの会の齋藤理事長が実行委員長、今村顧問が実行委員長を務めていました。国際交流が少ない町田市なので是非これからも活発な活動を期待するとともに一緒に力を合わせて行きたいと思えます。

2018.04.07-08

相模原市民さくらまつりに出店。無情にもさくらの花は全く無し。2日間のバザーで売り上げも一番多いので期待のかかるイベントです。高齢化で人数が足りない中、今回はネパールの仲間たちが大勢駆けつけてくれました。有難い事です。ネパールの皆さんは若いので大変にバワフル。焼きそばも客引きも元気そのものです。彼らも私たちの活動を理解してくれ、新たな会員になってくれました。日本国内のネパールの方々との交流が非常に有意義であることを実感したバザーでした。皆さんの笑顔がとても輝いていました。



今村 旭 顧問 本年2月永眠されました。

約20年の長きにわたり、ミカの会の先頭を歩いてくれた今村さんが膀胱癌のためにお亡くなりになりました。今村さんはいつでもにこやかで、話題が多く、会の中でも太陽のような方でした。ネパール支援の旅はもちろんのこと、バザーやイベントに積極的に出て頂き、会のために尽力いただきました。昨年はタイ・ブータン・ネパールの旅にも参加、リーダーとして引率してくれました。ネパール支援の旅でレンビニ聖地公園を訪問齋藤理事長の読経のもと、ご冥福をお祈りいたしました。写真が好き・車が好き・お酒が好きなダンディーな先生。ゆっくりお休みください。合掌。

「ネパールから嬉しいニュースです」

支援の旅で訪問したともご学校にネパール政府により6教室の校舎建設が始まりました。ミカの会の活動が呼び水になったとすれば嬉しいですね。きっと完成して地域の教育の中心になることと思います。ミカの会として継続した支援を考えましょう。



【編集後記】

第20次ネパール教育支援の旅特集号となりました。支援の旅、出発数日前に信じられない訃報が飛び込んできました。今村先生が亡くなったと。しばらく信じられなくて呆然としていました。年末からミカの会の先輩方の入院や手術の知らせを聞き驚いてとことろでした。昨年も変わらずブータン・ネパールと支援の旅にご一緒させて頂きました。が全く気になる事は無かったのですが。

個人的な話で恐縮ですが先生とは写真と車繋がり、交流があり、尊敬していました。フィルムからデジタルに移り変わり、少し情熱がなくなったのが残念でしたが、本人に頼まれて古いフィルムカメラをオークションで買ったりしたのですが、残念ながら使うことは無かったようです。また弔問にお邪魔した時にもお位牌のそばにランチア・インテグラレの模型が置いてありました。まだまだ教えて頂きたいことが多かっただけにとても残念です。どうかゆっくりお休みになってミカの会を見守ってください。大きな柱を失った喪失感が消えません。

支援の旅で最近体調を崩される方が多くなっています。ベテランの方も多いので水や食べ物とは思えないのですが。特に食べ物は全員同じものを頂いています。旅の後半に集中しているので疲労の蓄積、特に胃腸の疲れなのかもしれません。毎回のことですが年齢などを考慮に入れてビスタリビスタリのたびができればいいのですが？滞在日数の制約からも難しいです。皆さんで考えましょう。